

綾町埋蔵文化財調査報告書第6集

綾町内遺跡Ⅳ

2004. 3

宮崎県綾町教育委員会

綾町埋蔵文化財調査報告書第6集

綾町内遺跡Ⅳ

2004. 3

宮崎県綾町教育委員会

序 文

綾町は宮崎県のほぼ中央部に位置しており、照葉樹林が生い茂り、滾々と湧き水が湧き出る自然の豊かな町であります。古代からの歴史を語る文化財は、町民の財産でもあり、この文化財を保護しながら整備を図り、歴史の謎を解く資料とし後世に残すことは、現代に生きる我々に課せられた責務であります。

近年、本町においても各種の開発事業を実施するのに伴い、開発と保護の調整をいかに図るかが重要な課題となっております。特に平成14年度、15年度においては、本格的な遺跡調査がなされ、綾町の歴史の一端を垣間見るような新たな発見がなされています。

本書は平成15年度に実施した調査の報告であります。本書が文化財保護への理解に役立つとともに、生涯学習・学校教育等の場で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた諸関係機関や地権者の方々に厚くお礼申しあげます。

平成16年3月

綾町教育委員会

教育長 森山 喜代香

例 言

1. 本書は、綾町教育委員会が文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 調査は下記の体制でおこなった。

調査主体 綾町教育委員会

教 育 長 森 山 喜代香

社会教育課長 玉 田 清 人

社会教育係長 蓮 子 浩 一

庶務担当 社会教育係 井 上 隆 広

調査担当 社会教育係 井 上 隆 広

調査作業員 (社)綾町シルバー人材センター

整理作業員 淵 本 菜穂美

3. 現地調査は、井上が行なった。

4. 本書の編集執筆は井上が行なった。

5. 本書で使用した方位は、全て磁北である。

6. 調査の記録類、出土遺物などは全て綾町教育委員会で保管している。

目 次

本文目次

I 指定文化財一覧	7
II はじめに	
1. 綾町の環境	13
a 地形的環境	13
b 歴史的環境	13
2. 調査の目的	15
a 今年の開発事業について	15
III 試掘調査	
1. 梅ヶ谷地区宅地造成工事に伴う試掘調査（小田爪地区）	19
2. 町有地内の自然崩落による陥没部の試掘調査（錦原地区）	21

挿 図 目 次

第1図 綾町内埋蔵文化財包蔵地・指定文化財位置図	9
第2図 梅ヶ谷地区調査地位置図	19
第3図 錦原地区調査地位置図	21

図 版 目 次

図版1 小田爪地区貝の化石層	13
図版2 尾立遺跡遠景	14
図版3 綾古墳（首塚）	14
図版4 亜柳駅跡	14
図版5 垂水城跡遠景	14
図版6 小田爪地区調査地遠景	20
図版7 小田爪地区調査対象地	20
図版8 調査地現状（調査前）	20
図版9 第5トレンチ全景	20
図版10 第6トレンチ土層断面	20
図版11 第1トレンチ床面状況	20
図版12 錦原地区調査地遠景	22
図版13 錦原地区調査対象地（北側）	22

図版14	錦原地区調査対象地（南側）	22
図版15	調査前陥没状況（その1）	22
図版16	調査前陥没状況（その2）	22
図版17	陥没部周辺トレンチ状況	22
図版18	竪坑確認トレンチ状況	23
図版19	トレンチ全景	23
図版20	トレンチ内土層断面	23
図版21	陥没部表土削平後状況	23
図版22	陥没内壁面状況	23
図版23	作業風景	23

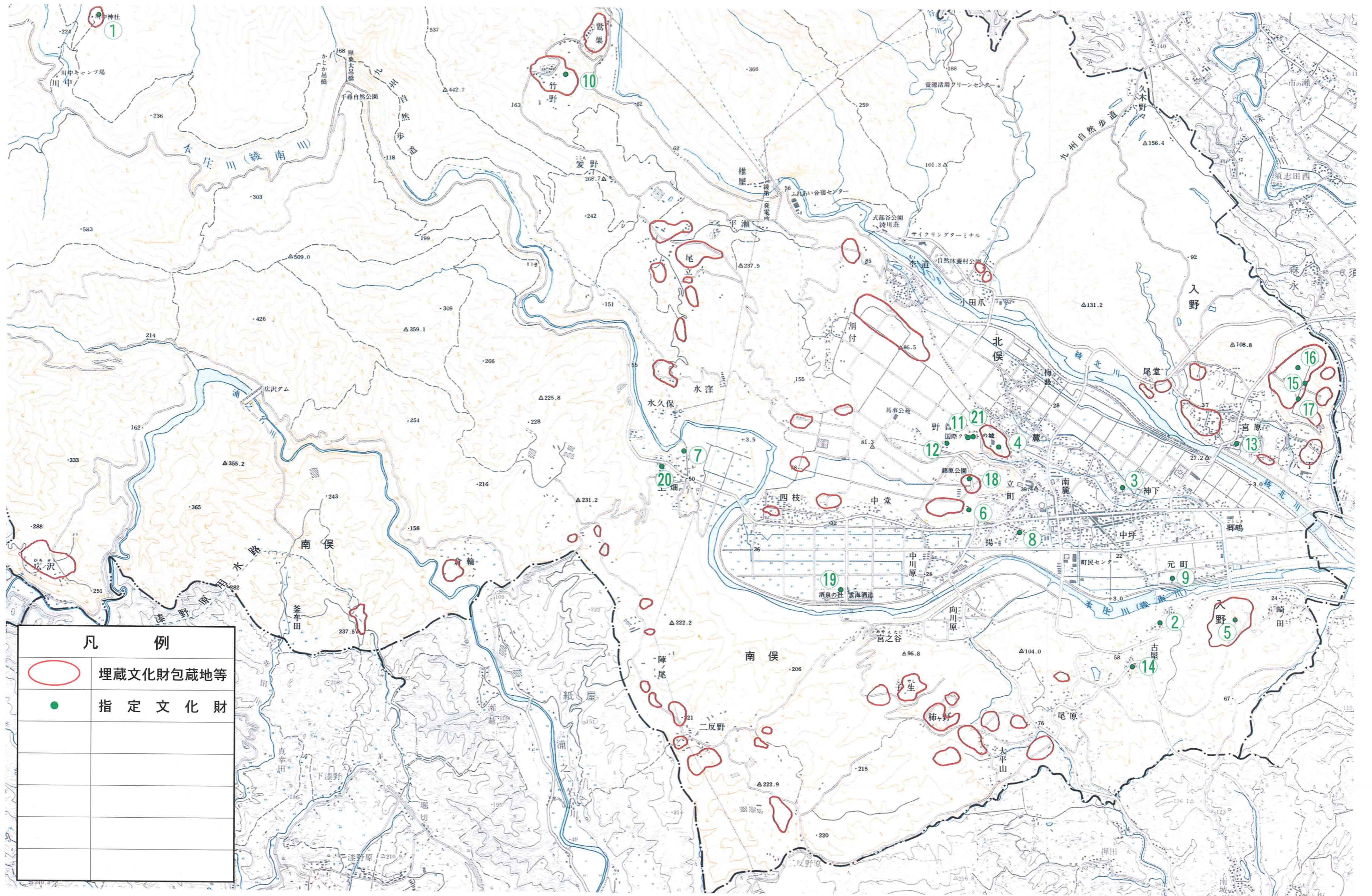
表 目 次

表 1	町内指定文化財一覧表	7
表 2	平成15年度試掘調査一覧表	15
表 3	報告書登録抄	24

I 指定文化財一覽

表1 指定文化財一覧

地図番号	文化財の名称	指定	種別	指定年月日
1	川中神社堂宇	町	有形	昭和51年10月1日
2	入野神社社殿	町	有形	昭和51年10月1日
3	黒葛原武家門	町	有形	昭和51年10月1日
4	綾城跡	町	史跡	昭和51年10月1日
5	垂水城跡	町	史跡	昭和51年10月1日
6	内屋敷城跡	町	史跡	昭和51年10月1日
7	肥田木城跡	町	史跡	昭和51年10月1日
8	垂柳駅跡	町	史跡	昭和51年10月1日
9	田村一三宅跡	町	史跡	昭和51年10月1日
10	竹野のホルトノキ	国	天然記念物	昭和52年2月17日
11	綾のイチイガシ	町	天然記念物	昭和60年1月4日
12	綾神社クスノキ	町	天然記念物	昭和55年10月1日
13	明見神社イチイガシ	町	天然記念物	昭和55年10月1日
14	刀工田中國廣宅跡	県	史跡	平成8年12月5日
15	綾町古墳(王の塚)	県	史跡	平成8年12月5日
16	綾町古墳(スミ床)	県	史跡	平成8年12月5日
17	綾町古墳(四反田)	県	史跡	平成8年12月5日
18	綾町古墳(首塚)	県	史跡	平成8年12月5日
19	旧清水家住宅	町	有形	平成4年5月19日
20	垂水弁阿闍梨の墓	町	有形	平成8年10月29日
21	野首の古井戸	町	史跡	昭和61年8月5日



第1図 綾町内埋蔵文化財包蔵地・指定文化財位置図

Ⅱ はじめに

1 綾町の環境

- a 自然環境
- b 歴史的環境

2 調査の目的

- a 綾町の今年度の開発について

1. 綾町の環境

a. 地形的環境

綾町の地形は大きく見ると、東と北隣は国富町の段丘地形及び山岳稜線で境されている。南は高岡町と接し、標高200mの丘陵地形が広がる。西は須木村と山岳の稜線で接している。町の80%は山林が占め、綾北川・南川に囲まれた地域には段丘地形と扇状地が広がっている。

一方地質を見ると、山岳地形を構成するのは古第三紀の日向層群（四万十累層群）である。この地層は砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層からなり、NE-SW方向の走向を示している。段丘地形を構成するものは新第三紀中新世の宮崎層群である。この地層は基底礫岩から始まり、砂岩層、泥岩層、砂岩泥岩互層から成る。宮崎層群の地層は、日向層群に比べて固結度が弱いいため侵食されやすく、そのため平坦な段丘地形がよく発達している。宮崎層群は日向層群を傾斜不整合に覆い、砂岩層には貝の化石を多く含んでおり、町内の至るところで貝の化石が発見されている。二反野の丘陵には、高位段丘礫層が堆積している。錦原付近の段丘は、中位段丘礫層から成る。概ね町内の地表付近にはアワオコシ、小林軽石、アカホヤなどのテフラが層をなして降下堆積している。



図版1 小田爪地区貝の化石層

b. 歴史的環境

町面積の80%を森林が占める綾町は、大淀川水系の綾南川・綾北川の合流点の扇状地に位置しており、集落は平坦地にある中心地区と、その周辺丘陵地及び山間高台地に点在している。

綾町の遺跡は、現在のところ平成7・8年度の詳細分布調査で約60箇所が確認されており、それらの遺跡のほとんどは、町中央部を流れている綾南川の南岸、綾北川の北岸、そしてその両河川に挟まれた中間丘陵地に分布している。

旧石器時代の遺跡は、現在のところ見つかっていない。しかしながら、平成元年に調査が行なわれた中迫地下式横穴墓群にて、竪坑埋土中に旧石器と見られる石器の剥片が発見されている。

縄文時代の遺跡は、平坦地には見られず、そのほとんどが丘陵地に分布している。縄文時代の表採資料としては、早期、後期のものが多く見ついている。特に綾町で県内の縄文後期の代表的な遺跡として挙げられるものが、中央丘陵地に所在する尾立遺跡である。この遺跡は、大正7年京都大学の濱田耕作博士らによって調査され、その後も何度か宮崎考古学会や宮崎大学等により調査がなされている。主な遺物は、縄文後期の土器のほか磨製石斧、石錘、石鏃などが出土している。また早期の遺物では、押型文土器や貝殻文系の土器の破片が見ついている。

弥生時代の遺跡は現在のところ見つかっていないが、詳細分布調査において高杯や壺などの破片が、割付地区周辺などにおいて見ついている。

古墳時代の遺跡は、宮原台地や錦原台地にその存在が確認されている。特に宮原地区では県の文化財に指定されている綾町古墳が3基所在している。また、四反田古墳の付近では昭和43年の畑地改良事業により地下式横穴が1基発見され副葬品として土師器・須恵器計7点や人骨が出土した。この地下式横穴の築造の時期については、須恵器の形式などから古墳時代後期と考えられている。古墳の所在する台地の一段下の宮原台地には、古墳時代の土師器や須恵器が多量に表採されており、集落の存在を予想させている。一方、錦原台地には古墳1基が所在している。その付近の内屋敷遺跡では、天井部の崩落により地下式横穴が1基発見され、県の文化課によって昭和56年調査がなされている。一方、尾立遺跡の附近の中迫遺跡では、ゴボウトレンチャーの掘削により陥没が起こり、県文化課によって発掘調査がなされ3基の地下式横穴が見つかった。この調査で直刀、鉄斧、イモガイ製貝輪、平玉等が出土し、また遺存状況の悪い女性の人骨も出土している。この遺跡で2基の竪坑の切りあいがみられたことは県内でもあまり例がなく特徴的である。中迫地下式横穴墓群の営まれた時期については出土遺物の構成などから5世紀末から6世紀前半が考えられている。また、昨年度調査の行われた椎屋遺跡では、出土遺物から古墳時代の頃と考えられる焼失住居跡も発見されている。

古代の遺跡については調査がなされていないが文献等によると「亜椰駅」の存在が予想される。

中世については、南北朝期を経て綾氏、伊東氏、島津氏の支配下にあった「綾城」の存



図版2 尾立遺跡遠景



図版3 綾古墳（首塚）



図版4 亜椰駅跡



図版5 垂水城跡遠景

在がある。綾城は伊東氏時代には、48城の一つとなり山東の拠点として重要な役割を果たした。このほかにも、町内には山城として垂水城跡、そのほかの城跡として肥田木城、内屋敷城などが残っている。特に垂水城、内屋敷城については、現在でも堀や土塁が良好に残っている。

参考文献

綾町	1979	『綾町郷土誌』
綾町教育委員会	1995	『中迫地下式横穴墓群』
石川恒太郎	1969	「東諸県郡綾町地下式古墳調査報告」『宮崎県埋蔵文化財調査報告書』 第13集 宮崎県教育委員会
面高哲郎	1996	「内屋敷地下式横穴群」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県
日高孝治	1993	「四反田地下式横穴」『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県

2. 調査の目的

a. 綾町の今年度の開発について

今年度の開発対応の調査は、公共1（ほ場整備関係）、民間1、自然崩落による調査1であった。それらについては担当課や事業者との協議の上、教育委員会が主となり、トレンチ法による試掘調査等を行った。

しかしながら、今年度もその他の民間・個人開発等に対しては、十分に対応がなされたとはいえない。実際に今年度は、土とりにより消失した遺跡も残念ながら見付かってしまった。発掘調査が事業者課せられた義務であることを周知徹底させる努力を今後も続けていかねばならない。

表2 平成15年度試掘調査一覧表

	地区名	調査期間	原因	開発主体	成果
1	小田爪地区	H15. 4. 22	宅地造成工事	個人	表採による土器片など
2	錦原地区	H16. 3. 11～ 3. 19	自然崩壊による陥没	—	人為的な壁等

Ⅲ 試 堀 調 査

1 梅ヶ谷地区宅地造成工事に伴う試掘調査

(小田爪地区)

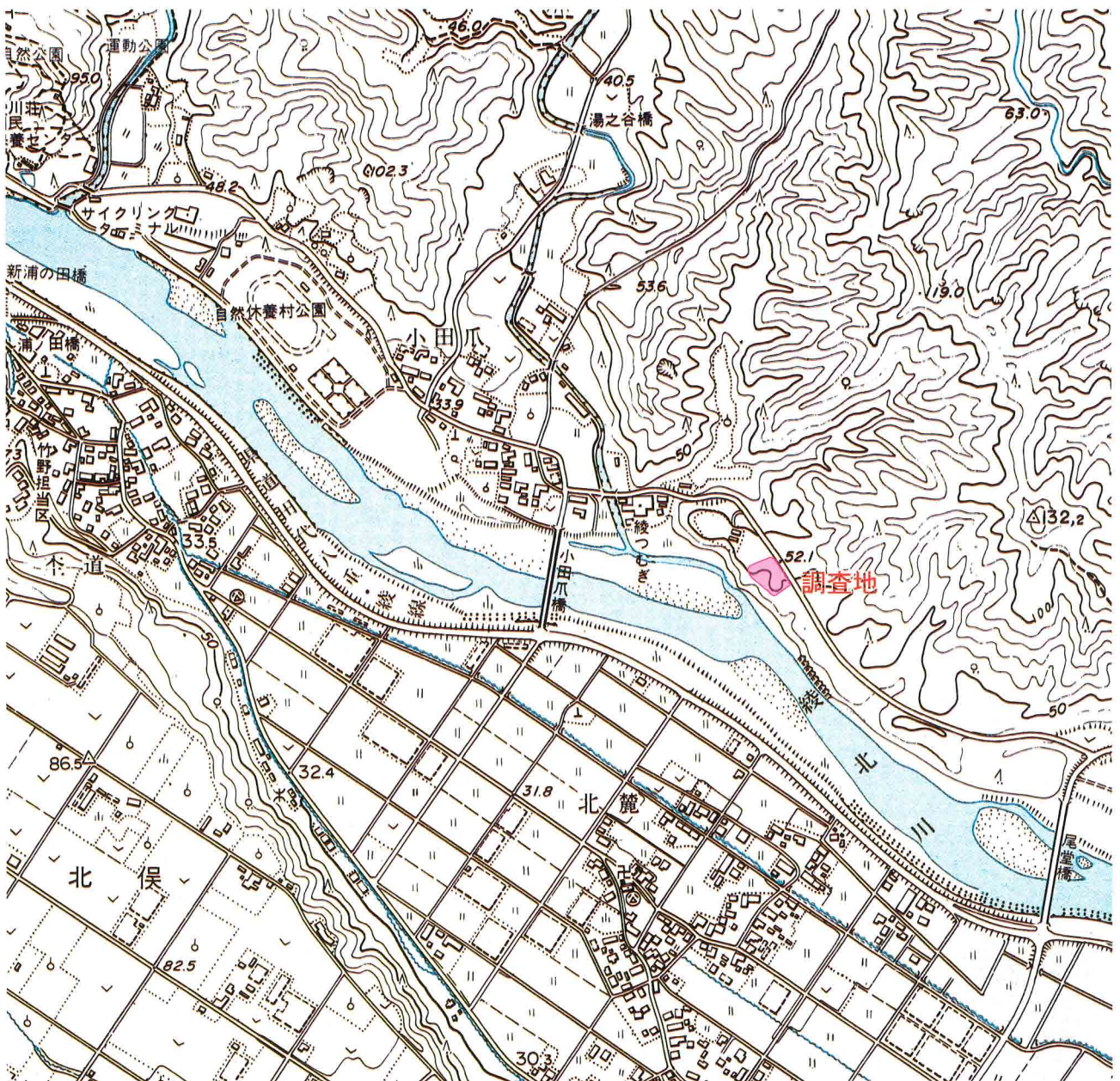
2 町有地内の自然崩壊による陥没部の試掘調査

(錦原地区)

1 梅ヶ谷地区宅地造成工事に伴う試掘調査（小田爪地区）

梅ヶ谷地区は綾町の中心部のほぼ北、綾北川の北側の台地上に位置する標高約50mの場所である。

文化財パトロール中にこの地で伐採した木を搬出していたところを通りかかり、事情を聞いたところ宅地造成を行うということだった。そこで現地踏査を行い、若干の土器の出土がみられたため所有者と協議をした結果、試掘調査を行うこととなった。試掘調査は、1日間で行き合計7本のトレンチを入れた。残りがよいアカホヤ層は一部のトレンチから見られただけで、ほとんどのトレンチは下層の小林軽石層が30cm～50cm掘った所で検出された。その後も表採される土器はあったものの、トレンチ内での遺構に伴った土器の出土は見られなかった。トレンチについては、調査終了後に埋め戻しを行った。



第2図 小田爪地区調査地位置図 (1/10,000)



図版6 小田爪地区調査地遠景



図版7 小田爪地区調査対象地



図版8 調査地現状（調査前）



図版9 第5トレンチ全景



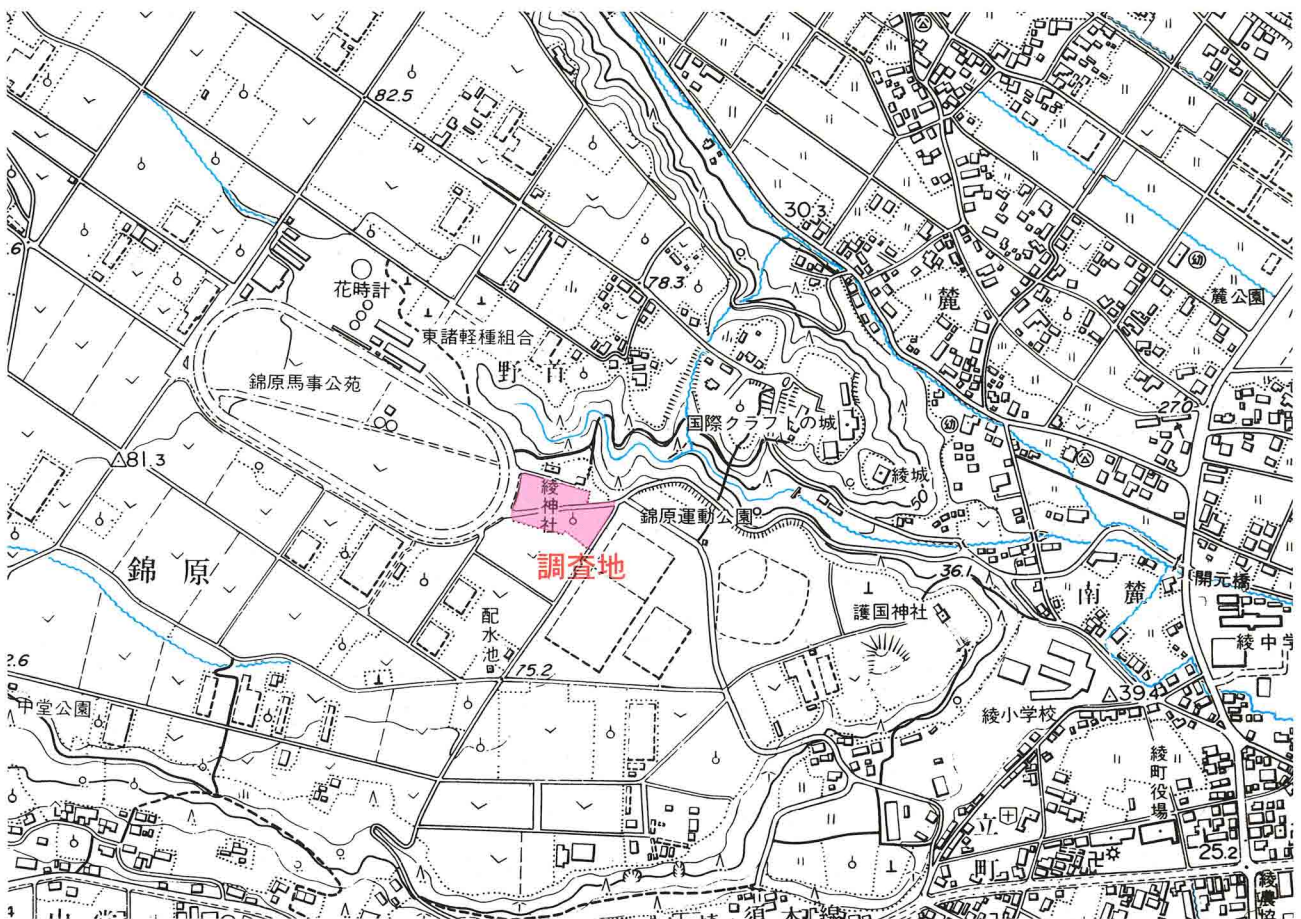
図版10 第6トレンチ土層断面



図版11 第1トレンチ床面状況

2 町有地内の自然崩落による陥没部の試掘調査（錦原地区）

今回試掘調査を行なった場所は、錦原台地の東側に位置する所であり標高は約80mほどである。周辺部には馬事公苑等が作られており、この一帯の地形はほとんど現状を留めていないといえる。今回の調査地は世代間の森として町によって管理されている。ここを管理する担当課から以前から陥没のようなものが数カ所存在するというので話があった。馬事公苑一帯は、大工園古墳をはじめ、内屋敷地下式横穴墓など古墳時代の遺跡が多く所在しているところであるため、地下式横穴墓の天井部の崩落による陥没ということも考えられるため試掘調査を行なうこととなった。試掘調査の日程は一週間とし、調査期間中に11本のトレンチを入れた。ほとんどのトレンチでは上部が道路造成の際に出た土での埋め土であったが、その下部には良好なアカホヤ層が見られた。陥没の激しい窪みのまわりに竪坑検出のためのトレンチを入れたが、竪坑は検出できず、土層断面からその陥没が、造成のために埋め立てられた土であると判断した。一方で、調査地の一番西側の陥没部では、人為的に掘られたような壁面が検出された。しかしながら、調査期間の制約や予算の都合等もあるため、今年度中の確認調査は出来ないと判断し、その陥没部のトレンチについては、ビニールシートをかぶせ現状で保存し、来年度床面の精査を行って地下式横穴墓であるかの確認を行う予定である。そのほかのトレンチについては、埋め戻しをおこなった。また、調査地南側の畑では、縄文土器破片を表採することが出来た。



第3図 錦原地区調査地位置図 (1 / 10,000)



図版12 錦原地区調査地遠景



図版13 錦原地区調査対象地（北側）



図版14 錦原地区調査対象地（南側）



図版15 調査前陥没状況（その1）



図版16 調査前陥没状況（その2）



図版17 陥没部周辺トレンチ状況



図版18 堅杭確認トレンチ状況



図版19 トレンチ全景



図版20 トレンチ内土層断面



図版21 陥没部表土削平後状況



図版22 陥没内壁面状況



図版23 作業風景

表3 報告書登録抄

フリガナ	アヤチヨウナイイセキ
書名	綾町内遺跡Ⅳ
シリーズ名	綾町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第6集
編集者名	井上隆広
発行機関	宮崎県綾町教育委員会
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣546-1
発行年月日	2004. 3. 31

綾町埋蔵文化財調査報告書第6集
綾町内遺跡Ⅳ
2004年 3月

編集・発行 綾町教育委員会
〒880-1303
宮崎県東諸県郡綾町大字南俣546-1
TEL. 0985-77-1183

印刷 有限会社垣原印刷
〒880-1101
宮崎県東諸県郡国富町大字本庄3984
TEL. 0985-75-2015

